

ゆっくり、面白くころがる！ビー玉スペシャルコース（図画工作科 表現）

ビー玉は子供にとって宝物のような存在であり、コロコロと転がして遊ぶと、ついつい夢中になってしまう。

本題材は、細長い板材にくぎを打って上から下へビー玉が転がるコースをつくり、その転がり方を楽しむ活動である。くぎを打ってビー玉が転がるコースをつくることで、くぎをトントンと打ち付ける音や、くぎが板に入っていくときの心地よさ、くぎが板に刺さる際のほどよい抵抗などから、くぎを打つときに様々な感覚を働かせることができる。

本題材では、「ゆっくり、面白く転がる」という共通のめあてに向かって、友達と感性を働かせながらコースをつくっていくことで、くぎの角度や間隔、できる軌跡など、くぎによってできる様々な形にこだわる姿を目指してみた。



くぎを打って、転がしてみると……？

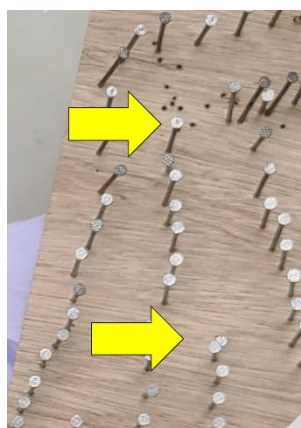
導入で、あらかじめくぎを打ったコースを用意しておき、ビー玉を転がしてみせた。ビー玉がくぎに当たって「カンカンカンカン……」と音を立てたり、面白い軌跡をたどりながら転がっていったりする様子から、子供たちは「様々にくぎを打ってみたい！」と造形意欲を掻き立てていった。

用具の扱いについては、個々の生活経験によって差があるので、全員が安心・安全に使えるように、正しいげんろう（金づち）とくぎ抜き（くぎ抜き）の扱い方を学んでから活動に入っていた。



「ゆっくり、面白くころがる」ビー玉スペシャルコースをつくらう

活動中は、ビー玉の転がり方を何度も確かめ、くぎを打っては抜いてを繰り返しながら「もっとゆっくり、もっと面白く」を叶えていくために様々な手立てを考えていった。例えば、



- ・ビー玉が転がる道筋のちょうど真ん中にくぎを打つことで、その後ランダムに2手に分かれるコースをつくる（左図）
 - ・コースアウトしないようにくぎを打ち、その中であえて不規則に釘を打つことで、毎回違う軌跡をたどりながら転がるコースをつくる
 - ・ビー玉が転がる道筋にくぎを2本、斜めに打つことでジャンプ台をつくる（右図）
- など、くぎによってできる様々な形を工夫し自分なりの表したいコースをつくっていった。



作品ができるにつれて、「友達とコースをつなげたい！」という思いが沸いていった。つなげて遊ぶことで、おのずと仲間の表し方と比べることになり、くぎが成す形のよさや面白さの多様性に気付いていった。

本題材によって、子供たちはできるコースに夢中になりながら、くぎの打ち方や抜き方に存分に慣れ親しんでいる様子であった。

（木村仁）